

令和 6 年度 なかぐしくどうん 中城御殿跡地整備検討委員会 概要

1. 令和 6 年度の中城御殿跡地整備検討委員会・部会について
2. 令和 6 年度検討スケジュール（予定）
3. 令和 6 年度第 1 回検討委員会の振り返り

1. 令和6年度の中城御殿跡地整備検討委員会・部会について

- 令和6年度は主に、第一期工事（上之御殿エリア）の工事、第二期工事（御内原・表御殿西側エリア）の設計・工事、展示収蔵環境を含む施設の管理体制などを検討する。また関連する龍潭周辺整備の状況も引き続き確認する。
- 中城御殿においては「中城御殿エリア検討部会」、また、龍潭周辺整備においては「龍潭周辺整備検討部会」を設置する。
- 部会における検討結果は、検討委員会で諮る。

検討委員会（3回予定）

【委員】	歴史	田名 真之	前沖縄県立博物館・美術館 館長
	歴史	高良 倉吉	琉球大学 名誉教授
	都市計画	池田 孝之	琉球大学 名誉教授
	考古、漆芸史	安里 進	沖縄県立芸術大学 名誉教授
	景観、建築	山城 一美	(公社)沖縄県建築士会副会長
	保存科学	早川 泰弘	東京文化財研究所 特任研究員
	地域、建築	伊良波 朝義	NPO法人首里まちづくり研究会理事長 (公社)日本建築家協会沖縄支部 支部長
	工芸（染織）	與那嶺一子	琉球大学 非常勤講師

【協力委員】	沖総局	中園 幸樹	開発建設部 公園・まちづくり調整官 首里城復元整備推進室長
	沖縄県	仲 厚	土木建築部 参事
		仲嶺 智	土木建築部 南部土木事務所長
		喜納 久	土木建築部 都市公園課長
		瑞慶覧 勝利	教育庁 文化財課長
		親富祖 ちか	文化観光スポーツ部 文化振興課 県立博物館・美術館 副館長
	那覇市	佐久川 泰尚	都市みらい部 参事兼都市計画課長
		上原 清実	市民文化部 文化財課長
	指定管理者	福地 敬	(一財)沖縄美ら島財団 事務局長

中城御殿エリア検討部会

- 中城御殿エリアのうち、設計等に関する詳細・具体的な内容を議論する。

龍潭周辺整備検討部会

- 龍潭周辺整備のうち、主に世持橋高欄の設計、松崎馬場伐採・植栽工事、龍潭西岸バリアフリー園路設計に関する内容を議論する。

部会構成員は、検討テーマにあわせた委員、専門家をアドバイザーとして招聘。関係部局を含めて構成。

2.令和6年度検討スケジュール（予定）

※進捗に応じて変更になる可能性がある

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討委員会	第1回				第2回					第3回
部会						適宜開催				
関係者調整	調整								調整	調整
検討内容	第一期工事（上之御殿エリア）、第二期工事（御内原・表御殿西側エリア 工事）									
	御内原・表御殿西側エリア 展示設計、管理運営体制の検討									
						龍潭周辺整備の検討				

月	会議	議論テーマ（案）
R6.6月6日	第1回検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の内容確認 管理体制の検討 御内原・表御殿西側エリア実施設計報告 龍潭周辺の整備についての確認
R6.10月29日	第2回検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の検討内容、部会設置の確認 上之御殿エリア整備の検討 脇門石牆の整備の検討 管理運営体制の検討
R6.11月～ R7.2月頃	検討部会	<ul style="list-style-type: none"> 検討部会にて各種課題を検討
R7.2月～3月	第3回検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> 成果の確認、今後の課題等について確認

3.令和6年度第1回検討委員会の振り返り

- 令和6年度第1回検討委員会（2024年6月6日開催）における主な意見は下記のとおりである。今後の現場施工時に詳細を検討する事項は工事への申し送り事項として整理している。

<表御殿東側エリアの平面表示>

- 畳間をコンクリート洗い出しにして、板間をコンクリート直均し仕上げにしたほうが雰囲気に合うのではないか。

畳間：コンクリート洗い出し

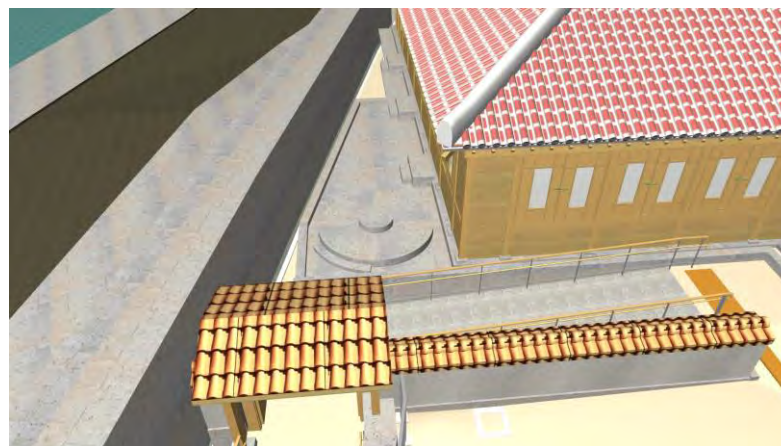
板間：コンクリート直均し仕上げ

表御殿東側エリアの平面表示イメージ（修正後）



<正門廻りの井戸移設位置の検討>

- 本来存在しない場所に井戸を持つてくるのは文化財復元の考え方としてはなじまない。元の位置に最も近い案が妥当だろう。遺構を保護するという意味で屋敷内に移すのであれば、井筒までは再現しない考え方もある。
- これまでの議論では、往時の材料・遺構が存在することを示すためとなっていた。ならば表示があればいいのであり、立体的に本物がある必要はないのではないか。
- この井戸は本来、生活空間にあったもので、正面エントランスのような公的な空間にあったものではない。中城御殿には複数の井戸があるので、井戸について紹介するならば他の場所で示せばよい。正面エントランス広場はできるだけ広く確保すべきで、井戸を置くべきではないと思う。
- この井戸を必ず見せなければならぬというわけではないならば、他の井戸の場所に表示があればよい。移設先は遺構に位置とする。



井戸移設位置

井戸移設先は往時の建物・石牆との位置関係を重視した位置とする。

3. 令和6年度第1回委員会の振り返り

工事への申し送り事項【今後引き続き検討】

<御内原エリアにおける仕上げ>

- 増床部分は左官塗装仕上げにより再現部分との質感の調和を図るとあるが、パースでは白っぽく、木部分と色味はかなり違うようだがどう調和を考えるのか。
- 御簾は竹製ということだが、往時も竹製があったのか。中城御殿には御普請日記があり、材料調達の記録がある。史料と耐久性の両面から検討する必要がある。
- 障子を摺りガラスとするという説明だが、現代的なイメージになってしまうので再考が必要ではないか。

<正門周辺の外構計画>

- 正門をくぐった左側のスロープは、扉があるため正門正面部分の通路幅が狭いのではないか。もう少し広く取れないのか。
- 正門は階段とスロープの組み合わせにしてはどうか。
- 中城御殿の前面道路は、往時の高さからかさ上げされているのではないか。両側の石牆は元の高さのため、正門屋根の高さとバランスを欠くのではないか。

<その他>

- 防犯設備については、防犯の観点から目立つことが必要とはいえ、意匠上違和感があるのもよくない。照明や自火報など多くの設備が設置されるため、意匠を考慮し全体で整ったものになるよう検討をお願いしたい。
- 展示室や収蔵庫の地震対策もとても大切なものと考えている。屋内での地震対策の視点もふまえて検討してほしい

(参考) 整備スケジュール

▽ 令和8年首里城正殿復元工事完成予定

